

文化庁委託事業「平成 28 年度 劇場・音楽堂等基盤整備事業」報告書

**劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業（国内交流研修）**

公益社団法人全国公立文化施設協会

株式会社文化科学研究所

<目次>

〔国内交流研修報告〕

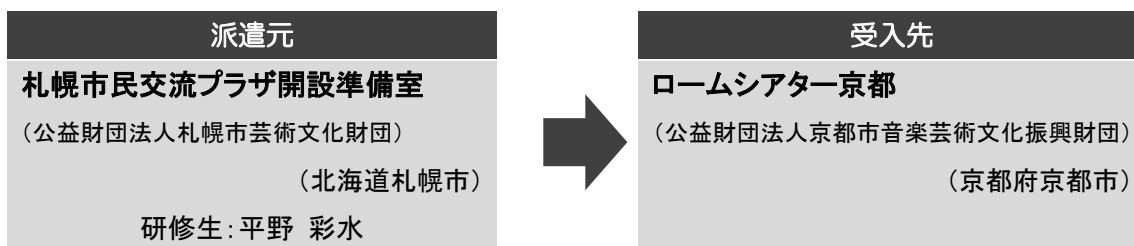
①実務者派遣事業

札幌市民交流プラザ開設準備室 → ロームシアター京都 .....	2
札幌市民交流プラザ開設準備室 → 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール .....	5
出雲市民会館 出雲芸術アカデミー → 千葉県文化会館.....	7

②インターンシップ事業

東北芸術工科大学 芸術学部 → えぞこホール（仙南芸術文化センター） .....	10
東北芸術工科大学 デザイン工学部 → いわき芸術文化交流館アリオス .....	14
上野学園大学 音楽学部 → 東京文化会館 .....	17
新潟大学 教育学部 → 東京芸術劇場 .....	20
山梨大学 教育人間科学部 → コラニー文化ホール（山梨県立県民文化ホール） .....	23

国内交流研修報告 ①実務者派遣事業



研修期間

平成 28 年 8 月 6 日(土)～ 8 月 23 日(火) 計 16 日間

研修概要

- 電動ボタン並びに吊下げ式音響反射板の運用方法および安全管理について  
説明、見学後に運用体験を行う。
- 舞台機構操作卓の操作方法及び作業の安全について  
説明、見学後に実際の現場に即して運転操作や卓のデータ設定の習熟訓練と安全管理に関する研修を行う。
- 貸館時の作業及び管理運営体制について  
資料に基づいた説明と、実際の運用を確認した。

日程・実施内容

実施日	内 容
8 月 6 日	劇場概要説明、メインホール機構説明
8 月 7 日	劇場施設概要及び運営管理体制説明
8 月 8 日	サウスホール機構説明、メインホール機構説明
8 月 10 日	メインホール コンサート 機構操作研修
8 月 11 日	メインホール 吹奏楽 機構操作研修
8 月 12 日～8 月 18 日	メインホール バレエ公演 機構操作研修
8 月 20 日	サウスホール ダンス公演 機構操作研修
8 月 21 日	メインホール 太鼓コンサート・吹奏楽 機構操作研修
8 月 22 日～8 月 23 日	サウスホール バレエ公演 機構操作研修

## 研修生の所感

札幌市民交流プラザ開設準備室  
平野 彩水

### ◆研修の目標

現在、私は平成30年10月に開業が予定されている札幌文化芸術劇場の開設準備業務に携わっています。本劇場は、北海道で初めてとなる多面舞台を有し、また可動式の音響反射板を備えることによって、高度かつさまざまなジャンルの舞台芸術の実演が可能となります。そのため、舞台技術スタッフに求められる役割も非常に重要であることから、本劇場の開業前に他の劇場での研修が必要であると感じていました。

この度の研修を受け入れてくださったロームシアター京都は、本劇場と同規模かつ同様の音響反射板を有する劇場であり、上演される演目のジャンルも多岐にわたっているため、ロームシアター京都において運用されている舞台機構の操作方法や安全確認のノウハウ等、管理運営の実際を学び、安全な劇場運営の参考とすることを目的として、研修に取り組みました。

### ◆研修の内容と成果

研修は主に舞台機構操作卓の操作研修を中心に行っていただきました。

マニュアル卓とシーン卓の説明、実際に動かしているところの見学、キューの打ち込みと、段階を経て研修を積み、最終的には実際の仕込みやりハーサル、バラシにおいて操作卓を操作するところまでやらせていただきました。

舞台機構の操作に関しては、前職での経験が多少あったものの、やはり館によって操作卓の仕様は異なる部分が多く、STOP、GO ボタンの取り扱いから戸惑うこともありました。しかし、レクチャーを通してロームシアター京都の操作卓の良い点や逆に改善したい点を伺い、また、実際に触らせていただくことで、それらを一層実感をもって知ることができました。

管理体制についても、劇場ごとに違いが多いことを実感しました。ホールについているスタッフの数や、パトンのアップダウンのオーダーの出し方、スピードの指定、操作卓側での受け方、動かし方まで、はじめは戸惑うこともありましたが、なによりも大切なのは安全かつ適切に持ち込みスタッフの要望に応えることであり、それぞれの劇場に合った運営方法を探っていくことがとても重要なのだと感じました。

特にロームシアター京都の皆様は、劇場利用者や持ち込みのスタッフに対して丁寧な対応をされ、また時にはセクションを超えて業務を補い合い、非常にスムーズに運営されていた点がとても印象的でした。

### ◆研修をこれからどう生かしていくか

今回、特に操作卓について集中して研修したことは、新しい劇場の操作卓の仕様のみならず、できれば劇場の枠を超えて、どの劇場のスタッフでも動かしやすい共通の操作システムを考えるために活用していきたいと思っています。併せて管理運営についても、ロームシアター京都で勉強したことを活かし、劇場を安全かつスムーズに運用できるよう、適切な体制を考えていきたいです。

現在開設準備業務に従事しており、なかなか現場に出る機会のない私にとって、今回の研修は現場の経験を積める貴重な機会となりました。特に劇場のスタッフとして働く中では、長期間にわたって他の劇場の実際を知る機会は少なく、そういった面からも大変貴重な経験とすることができました。教えていただいたこと、経験したことを活かし、新しい劇場のオープンに向けて、これからの業務に邁進していきたいと思っています。

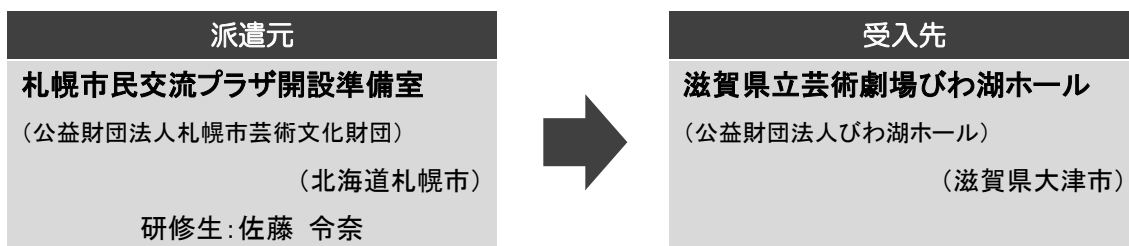
## 受入施設より

ロームシアター京都  
滑川 武

今回の研修生は、過去に複雑な電動機構操作の経験をしているが、当館の機構システムと異なっていたこともあり、当初は違和感を感じているようにも見受けられた。しかしながら、基本的な劇場機構を把握しているため、機構操作方法や安全監視対応も迅速に理解することができた。

研修中は当劇場の専任スタッフ指示のもと、実際に機構操作にも携わることにより、当劇場の現状と以前の職場での経験とを比較対象としてとらえ、幅広く視野を広げることで今後の舞台運営に多角的な視点をもつための一助となることを希望する。

国内交流研修報告 ①実務者派遣事業



研修期間

平成 28 年 12 月 26 日(月)～ 平成 29 年 1 月 1 日(日) 計 7 日間

研修概要

「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」の仕込み、撤収を通して、下記 3 点を中心に修める。

- ・音響反射板に視覚効果を付随させた演出作品の運用方法及び安全管理について
- ・音響機構、映像機構の操作方法及び作業の安全について
- ・貸館時の作業及び管理運営体制について

日程・実施内容

実施日	内 容
12 月 26 日	「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」 仕込み
12 月 27 日	来年度ラインナップ記者会見 仕込み、本番 貸館についてヒアリング
12 月 28 日	舞台諸室見学 「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」 照明、映像プロット
12 月 29 日	「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」 照明、映像プロット 通し稽古(止めあり)、M1映像素材 撮影
12 月 30 日	表回りヒアリング 「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」 オケ合わせ、場当たり
12 月 31 日	「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」 GR、本番
平成 29 年 1 月 1 日	「ジルヴェスターコンサート 2016-2017」 本番、バラシ

研修生の所感

札幌市民交流プラザ開設準備室

佐藤 令奈

◆研修の目標

当財団は、平成 30 年 10 月に開業予定の札幌文化芸術劇場の指定管理者として、開館準備業務を行っているところです。本劇場には、可動音響反射板及び大型プロジェクターが設置されることから、今回の研修で

は、従来の音響反射板の効果に視覚的效果を付加した催事を数多く開催している劇場の現場に身を置き、学ぶことで、本劇場における今後の事業に活用するとともに、自身の技術研鑽を目的とします。

#### ◆研修の内容と成果

研修前に想定していた量よりも多くの映像機器が仕込まれました。反響板を前方のみ使用し、正反となる後方は使用せず Horizont 幕を飾ることで、舞台の画角目一杯に映像を投影していたので3、4階客席のお客様も楽しめたのではないかと思います。しかし、札幌の劇場ではすべての反射面が一緒になっているので、リア打ちができないというデメリットに気づかされました。また、年を重ねていくと、映像編集ソフトや映像機器の操作を劇場の人間が担うことになっていき、現状の劇場運営を踏襲しては、（特にアマチュア団体に）十分なサービスが行えないのでは、という考えを持ちました。

札幌、ないしは北海道にとって、新しい劇場はたくさんの転機をもたらしてくれるものだと思います。今回の研修では、備品管理の一つの方向性や原設計から変更した方が良い点など、当初の目的以外のたくさんの問題点、検討事項を見出すことができました。また今回の研修で特に印象に残ったのは、受入れ先劇場職員の研修生に対する対応です。札幌では舞台技術職を目指す学生や若手の育成事業を検討していますが、受入れる研修生にとって前向きな未来を与えるには、職員のホスピタリティがどこまで行き届くかが一つの課題だと思いました。地元の劇場がその地域の人材を育てるには、どんな職員や劇場が求められるのか、びわ湖ホールという代表的な事例を体験することはとても大きな収穫になったと思います。

#### ◆研修をこれからどう生かしていくか

まずは原設計の設備と運用想定の見直しを図りたいと思いました。また、今回の研修で得た知識をそのまま踏襲するのではなく、ローカルルールを作るわけでもなく、全国平均に近づけ、北海道や札幌市から全国展開する団体が困ることのないように今後とも調査・研究を続けていきたいです。

リアルタイムでの映像の切り替えは、今回のコンサート形式だけでなく式典系のライブビューイングに生かせるのではと思いました。舞台正面映像だけでなく客席内部やある部分に寄った画を投影する技術を、劇場の人間が行えるとサービスの向上の一つに繋がるかもしれません。どの観点も札幌には得ることのできなかったものです。従来の貸館中心型の劇場とは異なる、創造型劇場の在り方を模索する良い材料となった1週間でした。

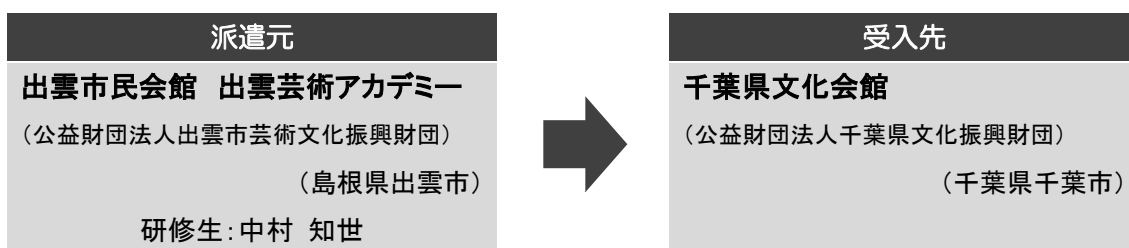
### 受入施設より

#### 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

押谷 征仁

びわ湖ホールが企画制作する催事を仕込みから本番まで研修した事は良かったと思います。演出家を含めてミーティングを行い、どんな所を要求されて、それを形にするために調整する。舞台芸術は「一つ一つの積み重ね」が重要です。要求されたことに限られた時間でどれだけ応えられるか、そのためには日々の努力が活かされます。催事の醍醐味はみんなで目標に向かって努力し、結果はお客様の笑顔で報われることです。その過程を経験していただいたことで、今後どのように主催事業を行なったら良いのかがわかるのではないかと思います。この経験を活かして活躍を期待しております。

国内交流研修報告 ①実務者派遣事業



研修期間

平成 28 年 8 月 18 日(木)～ 8 月 28 日(日) 計 9 日間

研修概要

千葉県少年少女オーケストラ活動内容である、練習活動の運営と「千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート2016」(東総公演・千葉公演)の公演準備、運営に関する実際の業務を補助する。練習活動での子どもたちへのアプローチや指導面、リハーサルから本番の裏方・表方など、両側から総括的に携わることでノウハウを研修する。

日程・実施内容

実施日	内 容
8 月 18 日	練習活動の運営の補助、立会い
8 月 19 日	子どもたちへの指導方法を学ぶ、運営業務補助、チケットシステム研修
8 月 22 日	台風により練習活動中止、チケット関係、施設見学、団員への送付物、提出関連資料の参照
8 月 23 日	本番(2 公演)のスタッフ事前打ち合わせ
8 月 24 日	指揮者の事前指導に立会い
8 月 25 日	指揮者との進行及び演出の打ち合わせに立会い
8 月 26 日	公開リハーサルの進行補助
8 月 27 日	「千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート 2016 東総公演」 舞台進行の補助
8 月 28 日	「千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート 2016 千葉公演」 観客対応の補助



## 研修生の所感

出雲市民会館 出雲芸術アカデミー  
中村 知世

### ◆研修の目標

「千葉県少年少女オーケストラ」は、国内で初めて県レベルで設立されたジュニアオーケストラとして 20 年の歴史を誇り、過去に出雲総合芸術文化祭の一環として、ジュニアオーケストラ設立前の出雲市で遠征公演を果たした実績を持つなど、研修生が所属する(公財)出雲市芸術文化振興財団が運営する出雲 Jr.フィルの設立にあたり多くの影響を出雲市に与えた団体であると言える。

研修最大の目的は、ジュニアオーケストラ運営の大先輩である当団の、歴史に培われた運営のノウハウを習得することである。160 人の大編成オーケストラを運営するにあたり、団体としての組織的な運営と団員一人一人との関係づくりをいかにして実現するのか。さらに実現のための指導の実際について情報収集し、課題と打開策案について共有・検討したいと考える。また、ホールの主催事業であるという視点から、他事業との連携や兼ね合い、立ち位置などについて考える機会としたい。

### ◆研修の内容と成果

千葉県少年少女オーケストラの練習活動運営の補助や立ち会いを中心に、施設の案内やチケットシステム、事業運営スタッフとしての活動、オーケストラ運営グループ以外の職員の皆様との意見交換を経て、多角的視点で事業について考える機会を得た研修となった。全体を通して強く感じたことは、何事においても徹底的に事業の推進が行われていることである。指導の実際においては、音楽監督を中心に講師陣に指導理念が共有され、団員が自ら考え主体的に活動する環境を作る、厳しさの中に愛情の溢れた指導、さらにその成果を確認する確かな過程が見受けられた。

財団職員の方々は、財団のミッションの理解と共有、高い専門性とチームワークに裏付けられた迅速かつ的確な対応が素晴らしかった。団員一人一人に対するきめ細やかな状況把握とそれに対する的確な対応、それを全体で共有する仕組みが確立されていた。さらに、音楽監督や招聘指揮者の要望を常にリアルタイムで把握し、即問題解決に動く行動力は、創造性の高い事業を推進する上において、大変重要なことであると感じた。

種が芽吹くまでに長い年月を必要とする文化事業、育成事業は、とすれば毎年のルーティンワークになりやすく、日々は地道な活動の積み重ねである。しかし、常に新しい視点をもって事業に臨み、その都度生の舞台に携わる者としていかに考えて行動できるか、柔軟な現場展開とそのために必要な事業内容・ミッションの理解、その組織としての共有が、真に創造的な事業の推進において必要不可欠であることを改めて感じた。

### ◆研修をこれからどう生かしていくか

ジュニアオーケストラの運営における事務的なノウハウの中で、即時に取り入れられるものは積極的に取り入れられるように提案を行う。また、今回の研修で得たことを各種運営会議で共有するほか、講師の先生方と共有する場を設け、改めてジュニアオーケストラ事業の推進にあたり、協議や共有が行われるよう働きかける。



## 受入施設より

千葉県文化会館

土屋 憲一

研修生は、積極的に当オーケストラの概要や活動の把握に努めるとともに、約 160 人の子どもたちとのコミュニケーションをとりつつ、団員の様子や体調の変化などにも気を配ることができるなど、現場での適切な判断や行動ができる人材であると思う。

練習では指導者との打合せにも加わり、その後に指導者への質問や意見を交換し、自ら積極的に団員へ声をかけるなど、丁寧かつ真摯に取り組む姿勢が見られた。

9 日間の中で台風の上陸もあり慌ただしいこともあったが、練習や公開リハーサル、そして旭市と千葉市での 2 公演を通して、舞台セッティングから進行の補助、指揮者や団員の対応などさまざまな面から業務を体験したことは研修生には有意義であったと思われる。

## 国内交流研修報告 ②インターンシップ事業

派遣元	受入先
<b>東北芸術工科大学</b> 芸術学部 美術史・文化財保存修復学科 （山形県山形市） 研修生：上原 由紀子、奈良 美咲、 渡部 友理	<b>えずこホール（仙南芸術文化センター）</b> （直営） （宮城県柴田郡）

## 研修期間

平成 28 年 8 月 26 日（金）～ 8 月 28 日（日）

平成 28 年 9 月 18 日（日）～ 9 月 21 日（水）計 7 日間

## 研修概要

今回の研修は、えずこホールの事業運営に関する概論を学び、ホール職員がどのように運営や企画、各事業に携わっているかを知ってもらい、ホールが主催する地域活性化事業、ホールが抱えている住民創造グループの準備及び公演、各アーティストを招いてのアウトリーチ等に直接関わることで、社会が幸せになるために文化芸術が大切な役割を果たしていることを直に感じてもらうものです。

## 日程・実施内容

実施日	内 容
8 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えずこホール事業運営概論Ⅰ（館長）</li> <li>・施設見学および企画・立案シミュレーション等</li> </ul>
8 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化事業「あずなびあまつり（かえっこ）」目的・概要等について</li> <li>・住民創造グループ「えずこシアター」公演準備、及び公演初日スタッフ業務参加</li> </ul>
8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術家藤浩志氏、映像作家泉山朗土氏との「えずこホール開館 20 周年記念事業」打合わせ</li> <li>・住民創造グループ「えずこシアター」公演 2 日目スタッフ業務参加</li> </ul>
9 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化事業「あずなびあまつり（かえっこ）」準備</li> </ul>
9 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化事業「あずなびあまつり（かえっこ）」準備・本番、各ブース担当</li> </ul>
9 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏木陽（演出家）アウトリーチ（保育園）体験</li> <li>・柏木陽（演出家）フィードバック</li> <li>・えずこホール事業運営概論Ⅱ（館長）</li> </ul>
9 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さとうたけし（ライブペイントアーティスト）アウトリーチ（支援学校）体験</li> <li>・おもちゃによる造形品「トイザウルス」修復作業</li> <li>・総括（館長）</li> </ul>

## 研修生の所感

東北芸術工科大学 芸術学部

上原 由紀子

### ◆研修の目標

舞台美術に興味があり、応募しました。現在、大学で学んでいる、美術の保存修復という分野とは全く違うものですが、その中で学んできたことをどう生かせばよいのか、社会は私が学ぶ分野に対してどのような感想をもっているのかを知り、実際の現場で業務を経ることにより学びたいと思いました。

新たな自分を見つけ、視野を拡大することを目標としました。

### ◆研修で学んだこと

7日間、今まで全く経験した事のないさまざまな体験をして、勉強になったと同時に自身の至らなさを痛感しました。特に印象に残っているのは、ホールの方々が私の学ぶ「美術品の修復」や「美術」という分野にとっても興味をもってくださったことです。というのもホールの方々は面白そうな事や、新しい事といった自分が触れた事がないものに対して、非常に敏感に反応していました。私は今まで自分の学ぶ分野に自信がもてずにいましたが、皆さんのように沢山のアンテナを張っている方々にとって、この分野はまだまだ需要のあるものなのだ、視野が広がりました。ホールの方々のもつ広い視野が、どんどん良い物を生み出しているのだと思いました。また、自分が生み出す物に対する責任のもち方というのも学べました。

ホールの職員は11名しかいないのですが、今回、体験させていただいた「あずなびあ祭り」という企画に、予想を大きく超えて2千人余りの参加者が集まりました。当日、ボランティアや私達も手伝いはしましたが、その基盤を敷き、成功に導いたのは、たった11人の職員の皆さんだと思えば、自分の企画・発信したものへの責任と、絶対成功させるという執念は凄まじいものだと思います。

### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

今後の課題は、自身ももっとさまざまなことに対して積極的にアンテナを張っていくことです。上記でも書きましたが、私は自分の学ぶ分野に対して自信がもてずにいました。しかしそれは、私が自分の選んだ道に対して責任を取れていないからだと考えました。「この分野をもっと面白くしよう」という気概があれば、私の分野は楽しく、社会の役に立つものであるはずで

す。今後はさまざまなことに敏感になって、学んでいる分野が社会的にどのような立場にあるか、正確に把握し、どのようにすれば社会のニーズに合った動きができるのか考えて、向き合っていきたいです。またそれにより私も自信をもった人間になれるよう努力していきます。

東北芸術工科大学 芸術学部

奈良 美咲

### ◆研修の目標

今回の研修の目標は、公共文化施設のスタッフがどのように地域と関わっているのかを実際に体験し、少しでも知ることである。

私は現在大学で学芸員課程を取得中であり、将来は美術館の学芸員になりたいと考えている。また学科では文化財の保存や修復、歴史などを勉強している。そのためか、文化施設は「芸術文化を守り、広めていく」というイメージがある。

普段学んでいることと劇場・音楽堂とは分野は違うが、地域との関わり方は共通するものが多いと考え、今後に生かすことができればと考えている。

#### ◆研修で学んだこと

えずこホールは住民参加型文化創造施設と銘打っており、住民を中心とした事業を行っている。

研修では、「えずこシアター」という地域住民が主体となって行う公演の補助や、「かえっこ」というオモチャ交換プログラム、アウトリーチという普段劇場に訪れることのできない住民を対象とした事業など、さまざまな事業に関わった。7日間という短い日数だったが、非常に充実した日々を過ごした。

今回の研修では、普段大学では関わることはないであろう子どもや年配の方々とは話し、えずこホールを通して地域の方が役者となり公演を開いたり、ボランティアとして公演の手伝いやイベントに参加したりと、皆が何かに取り組む姿を見た。そのことから、自分の役割をもち、物事に取り組むことで、1人1人が生き生きとし、地域が活気づくのではないかと感じた。今まで、私は、絵画や工芸品、仏像などの「物」を中心に学んできた。それだけに、えずこホールに集まる人たちを見たことは衝撃的であり、文化施設に人が集まり、地域の活気ある姿を見られたことは大きな収穫であるといえる。

#### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

今後の課題の一つとして、「知識を増やすこと」をあげたい。もし今後も学芸員を目指し、芸術・文化を提供する立場になるとすれば、引き出しの数は多いほうが良いだろう。それは研修中、働くスタッフを見ても感じたことだ。自身の専攻も大切だが、自分から興味の幅を狭めず、貪欲に学んでいきたい。

また、今回の研修を通し、公共文化施設はどのような役割を担うべきなのか、芸術は誰が必要としているのか、考える良い機会となった。えずこホールでは、住民の方に芸術・文化を創造する喜びを味わってもらうためにたくさんの事業を行っていた。短い日数の中でも、それを肌で感じる事ができたと思う。この経験を今後も活かし、たくさんのことを学んでいきたい。

### 東北芸術工科大学 芸術学部 渡部 友理

#### ◆研修の目標

今回の研修の目的は2つあります。

1つ目は、今私が興味をもっている業界の実情を知り、今の自分がそこに就職するためには何が足りないのかを知ることです。やみくもに努力するより、求められていることを正しく身に付けたいと考えたからです。

2つ目は、社会人として必要とされる能力を把握することです。学生のうちに社会経験を積み、実際に就職するまでにその必要とされる能力を身に付け、伸ばし、自分を成長させたいと考えたからです。また同時に自分のもつ強みは何かを知ることにもつながると考えました。

#### ◆研修で学んだこと

実際にさまざまな事業を経験した中で、インターン生に全て任された作業がありました。その作業で、休息の重要性を教えられました。期待に応えることや、自分たちの求めるクオリティを目指しすぎて、どうしても休むことを忘れてしまいがちでした。休むときと働くときをしっかりと分けなければ体調を崩してしまうかもしれない。

作業の効率が下がってしまうかもしれない。限界までがんばるのではなく、息をとりながらがんばることで、高いクオリティの仕事にもつながり、また多くのことができるのだということを学びました。

もう1つ学んだこととして、事業の大小、人数の多少に関わらず、事前打ち合わせ・反省をしっかりと行うということです。どんな小さな点でも改善点としてあげ、次につなげており、これが人に愛される事業づくりにつながるのだということを学びました。

#### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

研修を終え、目標をもとに課題としたいことは2つあります。

1つ目は簡潔な言葉で自分の真意を話せるようになることです。学んだことの中で改善点をあげていたことを述べましたが、さまざまな場でどう感じたか、常に意見を求められました。そのような、より良くしたいという想いに応えるために、自分の考えを伝えようと言葉にしましたが、上手く伝えられず、はがゆい思いを経験しました。語彙を増やし、伝えたいことをストレートに伝えられる能力をつけたいと思いました。

2つ目の課題として、人にポジティブな感情をもたれるような行いができるようになることです。えずこホールではどんな事業においても運営側、参加側が互いにポジティブな感情をもっていたように感じました。将来、私がどのような職業に就いたとしても、人とのやり取りは重要であり、人との関係を良いものにするためには互いにポジティブな感情をもつことが大切だと思います。そのため、今よりもさらに人との関わり方について考え、その能力を伸ばす努力をしたいです。

### 受入施設より

#### えずこホール（仙南芸術文化センター）

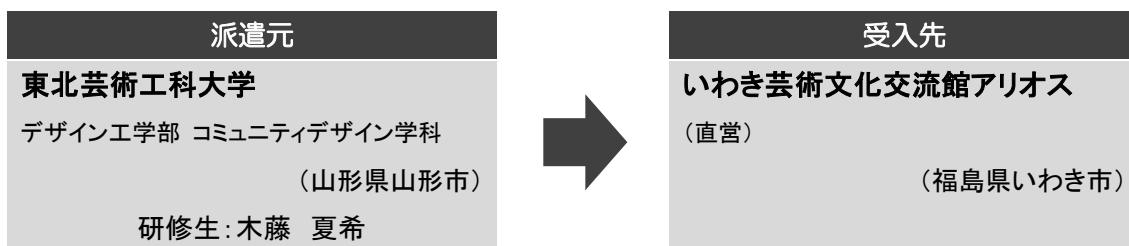
水戸 雅彦

研修生には、これまで携わったことのない、各事業を含めた公共ホールでの仕事を、7日間やり遂げられたことにまずは感謝します。

各事業が中心のため、スケジュールの時間帯も不規則に変動することもあり、体調管理が難しかったことと思いますが、笑顔で、意欲をもって、率先して与えられた業務に取り組む姿勢には、職員はもちろんボランティア、各関係者からも好感をもたれていました。

本来であれば、今学んでいる文化財の修復に通ずることや、舞台美術・舞台装置を学びたいとのことでしたが、劇場の社会での役割的な大きな視点から、さまざまな体験を通して有意義に過ごせたと感想をもらいました。今回の研修が少しでも今後の役に立つことを職員一同心から願っています。

国内交流研修報告 ②インターンシップ事業



研修期間

平成 28 年 12 月 25 日(日)～ 平成 29 年 1 月 5 日(木) 計 6 日間

研修概要

いわきアリオスにおける地域密着、市民協働型事業の現場と、事業に関わる市民や関係者との交流を通して、公立文化施設が地域課題に対してどう向き合い、アートを通じたまちづくりに貢献しようとしているかを学んでいただく。

また、いわきアリオスの広報活動(Facebook記事の執筆等)を体験することで、市民に向けた情報発信のあり方を考える。

日程・実施内容

実施日	内 容
12 月 25 日	オリエンテーションと施設見学、バックステージツアー「たんけんアリオス」の見学、Facebook用レポートの執筆
12 月 26 日	小川地区における「スキマチイワキ meeting」実施に向けた地域住民へのリサーチ活動、Facebook用レポートの執筆
12 月 27 日	スタッフに「東北芸術工科大学で学んでいること」についてワークショップ形式でレクチャー、当館の事業チラシのあり方について、スタッフ及び地元デザイナーとのディスカッション、Facebook用レポートの執筆
12 月 28 日	市内の福祉系事業所の主催によるまちづくりワークショップへの参加、Facebook用レポートの執筆
1 月 4 日	企画制作課の自主事業及び広報グループの取り組みについてのレクチャーと意見交換、Facebook用レポートの執筆
1 月 5 日	当館の開館 10 年以降を見据えたビジョンについて市民と合意形成を図りながら醸成していくためのプロセスと手法についてのディスカッション、支配人大石時雄氏による総括、Facebook用レポートの執筆



## 研修生の所感

東北芸術工科大学 デザイン工学部

木藤 夏希

### ◆研修の目標

大学でコミュニティデザインを専攻し、地域課題の解決に向けたコミュニティのあり方について学ぶ中で、特に元から関心分野であった芸術文化活動を、より多くの市民にとって身近なものにするためにはどのような仕組みがあるのか、ということ、先進的な活動を進めている実習先で学びたいと考えている。

なぜいわきではそのような活動が可能になったのか、地域の特色や、実習先のアリオスではそれに対してどのように取り組んでいるのか、それを可能にしている環境とは何か、注意深く学んでいきたいと考える。また、魅力的なプログラムの企画の背景や、それを可能にしている組織体制についても学びたいと考える。

それらの学びから、地域の公共文化施設が担うべき役割や、他の文化施設を含む公共空間や芸術文化の在り方を考える。

### ◆研修で学んだこと

アリオスは公共ホールとして、芸術文化振興以上の居場所作りに取り組んでいた。

大きな特色としてマーケティングが元になっている広報チームがあり、劇場で行われるパフォーミングアーツ以外の活動は広報チームが担って企画・運営しているそうである。

いわき市民35万人を対象とする公共ホールとして、芸術文化や劇場になじみのない市民に対しても認知度を上げ、芸術文化を振興するため、広報グループの活動は多岐にわたっていた。そのなかでも「スキマチワキ」では職員自身が興味のある切り口で街に出て、アーティストとともに地域でイベントを開催するプログラムが興味深かった。

私が専攻するコミュニティデザインの領域に近い地域振興が、どのように芸術文化施設であるアリオスと関わっているのかと疑問だったが、その境界は曖昧であり、それぞれの力が発揮されることで「いわき市民」の生活向上を目指すことには変わらないのだと気付いた。

### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

コミュニティデザインで用いられる考え方や手法は、応用しながらアリオスのような地域の文化施設が行政という立場で活用することができると感じた。しかし、コーディネーターのような役割を担える人はいないため、アリオスが地域で活動しようとしたときにかかる時間や手間は、通常の劇場運営と並行するためには負担を軽減する必要がある。コミュニティデザインは地域と活動をつなぐコーディネーターのような立場の者が第三者として存在することで円滑に課題解決に取り組むことができると考えられるが、その形式に当てはめない場合にも地域と施設をつなげるための組織が必要であると感じる。そのために自分は芸術文化振興の現場に対する知識や経験ももちろん無く、最良の方法を考えるには力不足だと痛感した。劇場の機能が拡張しているなかで、地域や劇場が抱える課題を結びつけ、解決に導けるような人材が必要だと感じ、自分自身が担うならば何ができるか、これから考えていきたいと考える。



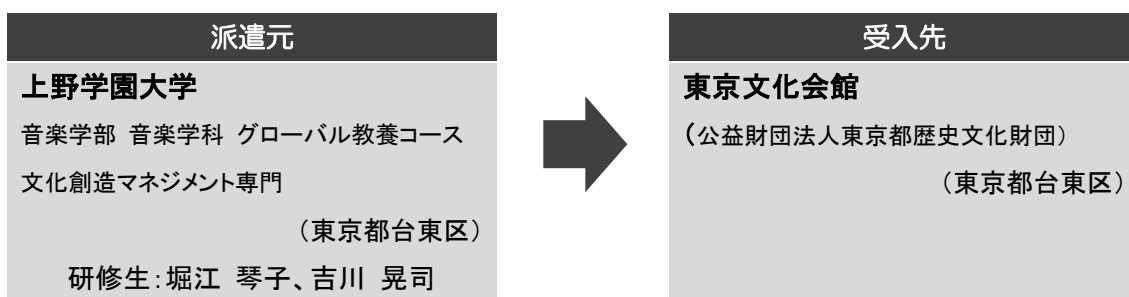
## 受入施設より

いわき芸術文化交流館アリオス

長野 隆人

年末年始にかかったためイベント付きの実習ができず、座学や一緒に考える時間が多い研修になりましたが、木藤さんはそうした中でも、当館の地域における立ち位置やミッションを正しく把握し、自身が学んでいるコミュニティデザインの考え方や方法論を、いわきというまちで有効に活かすための方法を常に考え、提案、進言してくれたように思います。そうした提案は、今後の当館の運営や方向性を検討する上でも示唆に富んだもので、我々スタッフにとっても、これまでに受け入れたインターン生とは少し違った経験をさせていただきました。ありがとうございました。

## 国内交流研修報告 ②インターンシップ事業



### 研修期間

平成 28 年 8 月 20 日(土)～8 月 28 日(日) 計 5 日間

### 研修概要

- ・ 第 14 回東京音楽コンクール第 2 次予選、及び本選の運営業務  
(表方、受付業務、審査員対応、懇親会対応等)
- ・ チラシ等発送業務、プログラムのチラシ挟み込み業務

### 日程・実施内容

実施日	内 容
8 月 20 日	コンクールの受付業務、お客様対応、チラシの挟み込み等
8 月 22 日	コンクールの受付業務、お客様対応、チラシの挟み込み等
8 月 23 日	コンクールの受付業務、お客様対応、開票作業、懇親会準備と対応等
8 月 25 日	コンクールの受付業務、お客様対応、開票作業、懇親会準備と対応等
8 月 28 日	コンクールの受付業務、お客様対応、開票作業、懇親会準備と対応、招待状送付作業等

### 研修生の所感

上野学園大学 音楽学部  
堀江 琴子

#### ◆研修の目標

コンクールとなると観客や出場者の他に審査員の対応も仕事に入ってくると思うので、東京音楽コンクールのような大きな大会をスムーズにまわしていくためのスケジュールや仕事分担など学びたい。また、コンクール入賞者へのサポートについてもできれば知りたい。

#### ◆研修で学んだこと

今回さまざまな業務を体験し、作業の仕方や作業をしやすくするための工夫を教えていただいた。そして本場に些細なことではあるが、大型印刷機の使い方を覚え、紙詰まりの対処ができるようになり、チラシの挟み込みを速く効率よく行えるようになった。

今回のインターン期間中に心がけていた「周囲をよく見て、相手の立場に立って考え、動くこと」という点に関しては、上手いかないこともあったが、積極的に動くことができた。

例えば、本選終演後には投票時間内に聴衆賞のすべての投票用紙を集められるように直接お客様から受け取ったり、アンケートと聴衆賞の紙をそれぞれの箱に間違えて入れないように、呼びかけながら回収をすることができた。ロビー整理では、コンクールの観客以外にも大勢の人がホールの館内を利用するので、お客様の立場になって考え、ここに人がいたら邪魔だと思うようなところや通り道は開けるように整理することができた。

また、作業したこととは別に、職員の方々の姿を見て感じたこともある。コンクール本選後の懇親会で飲み物を注いでいる際、職員の方々が、審査員の先生方と気さくに話している姿をよく見た。こうしてコミュニケーションをとることで、信頼関係が築かれていくのだと感じ、職員と審査員との間にも信頼関係があるように見えた。信頼関係を築き上げることで、また一緒に仕事ができる、という良い循環が生まれるのだろうと思った。

#### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

できていたところもあったが、まだまだ動けていないと感じた。

具体的に、お客様対応のところ、見に来られる方の中には楽器を持ってくる方もおり、大きな楽器はロビーで預かり、帰る際にお渡しする作業をしたが、その時に職員の方から「中には自分で楽器を運びたい人もいるから、まずお持ちしても良いか聞いてみて」と指摘を受けた。また、懇親会の準備の場面では、出席者が遠慮しないように食べ物をとりやすい位置に配置したり、金管の部の日は出場者の荷物が他の部門より多いことを見越して荷物を置くスペースを広くするなど、前日の懇親会の様子や相手の都合を考え、さらに良い空間に改善している職員の姿を見て、見習わなければならないと思った。

他にも反省すべき点が多々ある。まず、素早く効率よく作業をすることだ。これは常に指摘されており、まだまだ改善しなければいけない点である。

もう一つは報告をきちんとすることである。職員の方から頼まれた作業を終えたら報告するように注意を受けた。報告がないとどこまで作業が進んだのか把握できず、それを確認するために手間がかかってしまう。しかしこうして注意を受けたにもかかわらず、最終日に報告を忘れてしまった。帰りに気づいたときに電話を入れるべきだったと反省している。

今回のインターンで自分の至らない点を認識することができ、今後の課題を見つけることができた。見つけた課題を克服できるように、日常生活やアルバイト先でも実践していき、次にまたこのような機会があったときには自然にできるようになりたい。

## 上野学園大学 音楽学部

吉川 晃司

#### ◆研修の目標

大規模なコンクールを運営していく上で必要な役割や実際の進行の様子を体験し、将来的に自身が演奏会等の運営をしていくにあたっての勉強をする。

#### ◆研修で学んだこと

今回のインターンでは、実際に来場しているお客様と接する受付や裏での事務的な準備などさまざまな仕事を経験した。その中で、自分が反省しなくてはならないことがいくつかあった。

一つ目は、真にお客様の気持ちになれなかったこと。今回のインターンは音楽のコンクールであるため、当然ながら楽器を持って来るお客様がいらっしやったが、楽器を預かり保管する上で楽器本体よりも効率を優先

してしまい、楽器が破損する恐れがあるような危険な保管をして注意された。入場のための代金をいただいているお客様の私物の管理についての認識の甘さを痛感した。

二つ目は、工程の優先順位のつけ方に問題があったこと。会場の三箇所にチラシを置いてくるという指示を受けたが、その後すぐに休憩を取るよう指示を受けたため休憩を取った。しかし、そのチラシはチケットの前売りを翌日に控えている公演のチラシであり緊急で置く必要があった。上司に指示され急いでチラシを置きに行ったが、確認不足と日程の優先順位のつけ方に気をつけなければならないと認識した。

三つ目は、報告や相談を怠っていたこと。お客様に連日続いているコンクールの翌日分のチケットの販売場所と販売時間について質問された場面があった。自分は、販売場所は知っていたものの販売時間を正確に把握していなかったため、憶測で伝えてしまった。後に上司に確認してみると、販売時間は自分がお客様に伝えた時間よりも少し早く終わってしまうことが分かったが、その事実をそのお客様に伝えることができなかった。また、全国に送る招待状やチラシを入れる封筒を作る仕事のように上司の目が届かない仕事を指示され、途中で終えなければならない状況で、その進行具合を報告することを怠り、指摘を受けた。この指摘は、今回のインターンの中でも特に注意しなければならないことだと認識した。

#### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

今回のインターンを経て、上記のような複数の問題点が認識できたことは良かったが、反省すべき点についてはしっかりと自分自身を正したい。

一つ目の反省点には、自分自身でさらに丁寧に仕事をこなしていくという課題が挙げられる。今後は、自分の認識以上に丁寧に仕事をこなしていきたい。

二つ目の反省点には、自分に指示される仕事に対する認識をさらに明確にしていくという課題が挙げられる。今後は、特に指示を受ける場面で注意していきたい。

三つ目の反省点には、任された仕事にもっと責任をもつという課題が挙げられる。これは今回のような仕事だけでなくさまざまな場面において大事なことなので、今後は常に心得て忘れないようにしていきたい。

今後、今回お世話になったような仕事に就くことや、自身で事業を企画し運営をしていく可能性を考えた上で、今回のインターンで学んだことはとても大事なことばかりだった。これからの経験の中で今回の反省点を生かし、さらに充実した仕事をしていきたい。

## 受入施設より

東京文化会館

木村 あや

（堀江 琴子さんについて）

挨拶、身だしなみ、言葉遣い等、いずれも問題ありませんでした。おとなしい雰囲気ではありましたが、周囲の状況をきちんと把握しながら業務に携わっているように見られました。また、他のインターン生とも協力しながら業務を進めていました。単純作業を行う際には、どうやったら効率良く作業できるかということを念頭に置いて、工夫しながら速く、正確にできるようになると良いと思います。

（吉川 晃司さんについて）

挨拶、身だしなみ、言葉遣い等、いずれも問題ありませんでした。何事にも率先して取り組もうとする意欲が見られました。また、他のインターン生とも協力しながら業務を進めていました。

初めてのことで、何でもチャレンジしようとする心構えに好感がもてました。

## 国内交流研修報告 ②インターンシップ事業

派遣元	受入先
<b>新潟大学</b> 教育学部 芸術環境創造課程 音楽表現コース （新潟県新潟市） 研修生：岩崎 仁美	<b>東京芸術劇場</b> （公益財団法人東京都歴史文化財団） （東京都豊島区）

### 研修期間

平成 28 年 12 月 15 日(木)～ 12 月 21 日(水) 計7日間

### 研修概要

主催事業であるシアターオペラ、古楽ラボ、芸劇ジュニア・アンサンブル・アカデミー、芸劇ウインド・オーケストラ アンサンブル演奏会の現場対応(体験)を通して、東京の公共劇場をとりまく環境について、OJT 形式で研修を行う。

### 日程・実施内容

実施日	内 容
12 月 15 日	オリエンテーション、大ホール利用選考委員会見学 シアターオペラ：稽古立会い 芸劇ウインド・オーケストラ アンサンブル演奏会：事務作業
12 月 16 日	シアターオペラ：稽古立会い
12 月 17 日	古楽ラボ：現場対応 芸劇ジュニア・アンサンブル・アカデミー：現場対応
12 月 18 日	シアターオペラ：稽古立会い
12 月 19 日	芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー演奏会：現場対応
12 月 20 日	芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー演奏会：現場対応 ゼミ(職員との意見交換・質疑応答)
12 月 21 日	芸劇ランチ・コンサート:現場対応 ゼミ(芸劇の貸館業務について)

### 研修生の所感

新潟大学教育学部  
岩崎 仁美

#### ◆研修の目標

私は大学でアートマネジメントを専攻し、将来は公共ホールで働きたいと思っています。そのためこの大学 4 年間で、地元新潟の音楽ホールでインターンシップやアルバイトを経験し、職員の側で企画制作の実際の現

場を見たことにより、他のホールでの音楽事業の企画制作を見てみたいという気持ちが強くなり、今回のインターンシップに応募しました。

特に、現在自分が住む環境とは違う首都圏のホールではどのような企画を行っているのかという点に興味があり、東京芸術劇場を希望しました。実際の現場での体験を通して、音楽の事業企画というものはどのように作られているのか、また、職員がどのような想いをもって働いているのかを知ることを目標に、今回の研修に参加しました。

#### ◆研修で学んだこと

1 週間の研修で一番印象に残っていることは、企画制作の職員の方から音楽の企画制作で大切なことは「20年先を見据えて企画すること」だと教えていただいたことです。東京芸術劇場では最近まで貸館メインでホールを稼働してきたそうですが、現在は世界中から愛されるホールを目指して自主事業にも力を入れ始めた転換期を迎えています。

世界中から愛されるホールとは、世界で活躍するアーティストがこのホールで演奏をしたいと思い、そしてその演奏を聴きに来たいと思う人々が集うホールです。そのためには「今年や翌年の事業が何とかなればいい」のではなく、20年先を見据えた企画をコツコツ積み重ねていかないと、世界中から愛されるホールをつくることはできないとのことでした。そのため、20年後に世界で活躍する可能性のあるアーティストを見つけ、コンサートに出してもらい、ホールに愛着をもってもらえるようにすることが大切な仕事だと教えられました。この仕事をすることによって、「あのアーティストが良いと言っているホールなら自分も演奏したい」というアーティストを増やし、そして、「あのアーティストの演奏を聴けるホールに足を運びたい」という聴衆を増やすことで、世界中から愛されるホールをつくることができると学びました。

#### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

今回の実習で職員の仕事を見て、私には「気配り」が足りないという事に気が付きました。オペラ稽古の休憩時にコーヒーひとつを出すにしても、あるアーティストには砂糖を入れて、もう一方には入れないなどのそれぞれの好みを把握していて、アーティストが休憩をスムーズにとれて落ち着ける環境を素早くつくっているのが印象的でした。また、アーティストだけでなく、同じ現場で働く方達が働きやすい環境をつくるための気配りと、そこから生まれる信頼関係を築くことがとても大切であると職員の姿を見て学びました。そして、このように実際の現場に立ってみなければ分からなかったことに気が付けたのも、東京芸術劇場の皆様が忙しい時間を縫って何も知らない私に丁寧にご指導くださった賜物です。本当にありがとうございました。私は今回の研修に参加する直前に長野市のホールに採用され、来年度から自分の希望するこの業界で働くことになりました。そして、これから社会に出て働く上で大切な「気配り」と、音楽事業を行う上で大切な「20年先を見据える」ということをこのタイミングで学べたことは、とても大きな収穫でした。今回の実習で学んだことをもとに、就職してからも周りの方々の姿を見て学び、少しでも早くアートマネジメント業界に貢献できるようになりたいです。

## 受入施設より

### 東京芸術劇場 出口 マミ

既に本人自身が進路について確たるものをもっており、またこれまで他の公立文化施設でもインターンを行ってきているためか、非常に高い意識をもったの研修であった。一週間という短い期間であったため、当館で研修時にちょうど行われている事業の現場対応が主となった。本人からは、これまで地方の公共施設でしか研修してこなかったため、首都圏の公共施設で研修することにより非常に勉強になったとの感想があったように、その立地による公立文化施設の違いを肌で感じる事ができたのではないと思う。最後に短時間では

あったがゼミにて質疑応答を行い人材育成担当者と忌憚のない情報交換をした。今後の本人の糧となってくれることを願う。



国内交流研修報告 ②インターンシップ事業

派遣元	受入先
<b>山梨大学</b> 教育人間科学部 生涯学習課程 芸術運営コース （山梨県甲府市） 研修生：河本 和也、齋藤 由衣 鈴木 彩加、渡邊 梨央	<b>コラニー文化ホール</b> （山梨県立県民文化ホール） （アドブレーション・共立・NTT-F 共同事業体） （山梨県甲府市）

研修期間

平成 28 年 10 月 2 日（日）～ 平成 29 年 1 月 15 日（日） 計 16 日間（各研修生は 12 日間）

研修概要

- 制作スタッフの補佐  
 稽古場の手配と会場準備、ケータリング手配、各種資料の準備  
 大道具、小道具、美術、衣装等の製作・調整・管理  
 広報宣伝物の仕分け、配布、簡単な告知 PR
- アウトリーチの運営手伝い
- 初歩的な演技研修（10 月 22 日、11 月 12 日は八王子いちょうホール）

日程・実施内容

実施日	内 容
10 月 2 日	舞台の基本知識・技術研修
10 月 15 日	事務局運営全般、会場準備、ケータリング手配等（「ミュージカル シンデレラ」稽古初日）
10 月 22 日	事務局運営全般、会場準備、ケータリング手配等、小道具製作（「ミュージカル シンデレラ」東京組稽古）
10 月 29 日	設営、もぎり、お客様誘導、撤去（「辻井伸行&海外オケ」本番）
11 月 12 日	事務局運営全般、会場準備、ケータリング手配等（「ミュージカル シンデレラ」東京組稽古）
11 月 26 日	事務局運営全般、会場準備、ケータリング手配等、小道具製作（「ミュージカル シンデレラ」山梨組稽古）
11 月 28 日	設営、舞台進行補佐、もぎり、お客様誘導、撤去（「西本智実&海外オケ」本番）
12 月 10 日	事務局運営、設営、舞台進行補佐（「県民第九演奏会」仕込・GP）
12 月 11 日	事務局運営、もぎり、お客様誘導、撤去（「県民第九演奏会」本番）
12 月 19 日	事務局運営、会場設営（終日）（演劇公演 三好十郎作「冒したもの」）
12 月 20 日	事務局運営、設営、撤去（終日）（演劇公演 三好十郎作「冒したもの」）

12月25日	事務局運営全般、アウトリーチ運営（イオンモール甲府昭和にて）（「ミュージカル シンデレラ」アウトリーチ事業）
1月7日	舞台技術業務、事務局業務全般、小道具製作（「ミュージカル シンデレラ」合同稽古）
1月8日	舞台技術業務、事務局業務全般、小道具製作（「ミュージカル シンデレラ」合同稽古）
1月14日	舞台技術業務、事務局業務全般、小道具製作（「ミュージカル シンデレラ」合同稽古）
1月15日	舞台技術業務、事務局業務全般、小道具製作（「ミュージカル シンデレラ」合同稽古）

## 研修生の所感

### ◆研修の目標（全員共通）

- ・ アーツマネジメントの実務を体験すること
- ・ アーツマネジメントの知識・技術を習得すること
- ・ アーツマネジメントの資質や能力について理解すること

### 山梨大学 教育人間科学部

河本和也

### ◆研修で学んだこと

これまで音楽のコンサートには何度も関わってきたのですが、今回、初めてミュージカルの制作現場に参加し、舞台装置や小道具などだんだんとできあがっていく過程に感動しました。また、演出家の方が使っている言葉が、最初は難しく理解できなかったのですが、仕草や足音で気持ちを伝えようとする意図がわかってくると奥深さを感じました。大学の授業では知ることができないことだったと思います。

### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

こうしたプログラムがある一方で、私がいる大学のアーツ・マネジメントコースは、新しい入学者を募集せず、廃止することが決まっています。今後、こうした経験を後輩たちができないのは、とても残念です。

### 山梨大学 教育人間科学部

齋藤 由衣

### ◆研修で学んだこと

舞台のセッティングを経験したり、新しい企画に参加した際の言葉からは、学生ではなく、スタッフの一人として対等に接して下さっている気持ちが伝わってきました。それだけにやりがいがありました。

### ◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

- ・ 実際にさまざまなことを体験できたことで、こういう仕事につきたいという気持ちが高まりました。この気持ちをもち続けていけたらと改めて感じました。
- ・ 一度きりではなく、これからもこうした機会を大切にしていきたいです。ボランティアでもいいので、何かしらの形で継続して関わっていきたいです。

山梨大学 教育人間科学部  
鈴木 彩加

◆研修で学んだこと

- ・私は高校生の時にミュージカルの舞台を経験したことがあり、多少自信をもっていたが、今回、実際にプロの仕事に接し、スケールの大きさに驚き、関わっている人々の意識の違いに心を打たれた。
- ・専門用語が飛び交うことが何度もあったので、基礎的な知識や、何度も議論や実験を繰り返してさらに良くしようとする気持ち、音響や照明といった制作技術、その場の発想力などが必要である。
- ・人の心を動かす芸術の素晴らしさや、そのような舞台をつくりあげる大変さ、楽しさを肌で感じる事ができた。
- ・ひとつの舞台にたくさんの人の関わり、準備があるということを学んだ。

◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

- ・多くの人に気軽に芸術体験をしてもらいたいと願うとともに、せつかくのこの体験を一度きりで終わらせてしまふのではなく、これからもこうした機会を大切にしていきたいと思った。ボランティアでもいいので、何かしら形で継続して関わっていきたい。
- ・来年も自主事業に関わろうと考えているため、来年の取り組み方をさらに良くしていきたい。
- ・芸術普及に関わっていきたい。

山梨大学 教育人間科学部  
渡邊 梨央

◆研修で学んだこと

- ・さまざまな分野の人が集まってつくられたプロジェクトであったため、多くの人の生き方や考え方に触れることができた。
- ・何もないところに人が集まり、どんどん大きなものになっていく過程に関わり、人が集まることによる力の大きさを感じた。
- ・いつも舞台は観るばかりであったが、今回のプロジェクトに裏方として参加し、観客に見えるのはキャストだけであるが、その裏でたくさんの方が支えているのだと実感した。
- ・プロジェクトの一環で高校での公演があり、とても好評で、これをきっかけに演劇に興味をもった高校生も多いのではないと思う。アウトリーチの効果の大きさと重要性を感じた。

◆今後の課題及び、研修をこれからどう生かしていくか

私はもともと演劇に興味があり、表舞台に立つよりもそういった人を支えたいという思いが強くあった。今回のプロジェクトに参加したことで、誰にも気がついてもらえないような裏方の苦労や辛さ、そして楽しさや充実感を学んだ。憧れであった仕事を実際に体験することで、今後就職活動をしていく上でとても参考になった。今後もこのプロジェクトは続いていくため、自分も参加していきたいと思うとともに、もっと多くの人に関わってもらいたいと思った。

## 受入施設より

### コラニー文化ホール

加藤 信一

4名とも最初から舞台の基礎知識をもっており、また裏方業務について高い関心と一定の理解をもっていたため、いずれの業務もスムーズに取り組むことができた。

問題を自ら見つけ課題とする姿勢はあったが、対策については経験のない業務ではやや時間がかかる傾向があった。しかし、この点については、今後の継続により解決するものと思う。

どのような業務にも挑戦する姿勢は、これからの成長に欠かせない重要なポイントで将来が楽しみである。